

2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

園田学園女子大学附属園田学園幼稚園

1 本園の教育目標

生き生きと力いっぱい遊ぶ子ども

じょうぶなからだ

ゆたかなこころ

すすんでやる気

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領・保育所保育指針を踏まえ、一人一人の子どもを大切にした質の高い教育・保育の実践を目指す。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育・保育の質向上のために園内研修を充実させる。	B	・4年ぶりのプール遊びに備え、大学教員による救命救急研修、高校養護教諭による熱性けいれん・食物アレルギー対応研修などを行うことができた。保育内容については、リズムミックについて深めたかったが、全教員が集まって研修する時間を確保することが難しかった。研修のもち方の工夫が必要である。
2	安全に子どもたちが生活できるように環境を整備する。	B	特に2学期後半にスポーツ振興センターにかかる事故が3件あった。改善が必要な点は迅速に対応ができた。事故から見える課題は2点ある。1点目は教育時間と預かり保育時間の連携、2点目は排水を含む運動場整備の問題である。1点目は教育時間担当と預かり保育担当の職員を複数にして、教育時間と預かり保育時間のつながりを明確にし、安全面でのルールを徹底していく。2点目は施設の問題のため、法人も交えて検討していく。また、日常生活の「ヒヤリハット」の情報共有を進めている。
3	認定こども園として保護者会の運営をサポートできるように役員の方との連	B	保護者会と相談し、「秋まつり」の開催時期を変更し、「夏まつり」を行った。来年度に向け

	携を図る。		て、児童教育学科の大学生と連携して「夏まつり」の開催を検討・提案することができた。
--	-------	--	---

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4 総合的な評価結果

評価	理由
B	それぞれの項目に課題も残るが、保育内容以外の研修の実施、施設改善の迅速な対応、大学生との連携という新しい提案等もできたため。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育・保育の質向上	保育内容だけでなく、必要な研修の開催を工夫していく。
2	安全な生活	新園舎になり5年が経過し、修繕が必要な箇所が出てきているため、一つ一つ丁寧に対応する。「ヒヤリハット」事例を集め、指導改善に活かしていく。
3	保護者会のあり方の検討	児童教育学科と連携して「夏まつり」×「サマーフェスティバル」を開催し、保護者会と学生にとってどうであったかを検討する。